特別支援学校小学部における音楽を活用した自立活動について

和歌山大学教育学部：菅道子（研究代表）、上野智子、山﨑由可里
附属特別支援学校：向井直樹　籔本安有美、川嶋護、小林史
教職大学院学生：　小山朱美　丸山顕
アドバンスド・プログラム生：八野由香　松井めぐみ、平畑慎吾　中本早紀

1. はじめに（共同研究の趣旨と経過）

本学部附属特別支援学校小学部（以下、小学部）において、自立活動の指導は、教育活動全般を通して、また、国語・算数を合わせた指導「ことば・かず」の中で長年行われてきた。自立活動は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」（2017（H29）年度改訂特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章第1　目標）ことを目的としている。小学部の子どもたちの実態は、発達面、障害特性面、また環境面からみても幅広い。このような実態の子どもたちの個に応じた目標を、小学部の早い段階から見極め、教育課程の中に自立活動の時間の指導を設け、実践していくことは有益であると考え、昨年 2019 年度より週1時間、取り組みはじめ、今年度 2 年目となる。

そこで本共同研究では、普段より授業を把握し実践する小学部教員と音楽教育学、障害児教育学の立場から自立活動の視点で授業実践を見る大学教員、教職大学院学生とで連携し、特に音楽の要素を活用した自立活動の教材づくり・授業づくりを模索することとした。

音楽を活用する理由は、自立活動の指導内容の 6 区分①健康の保持、②心理的安定、③人間関係の形成、④環境の把握、⑤身体の動き、⑥コミュニケーションが、音楽の有する機能と共通性をもっていると捉えたからである。

昨年度の本研究からも、自立活動の指導における音楽の有する機能は、各区分の項目に関係する力を高めることが実証できた。具体的には、音楽は様々な感覚への刺激となり、それが結果として認知に関する機能を高めたり、運動機能を高めたりすることができた。今年度の研究も、昨年度の成果と課題を踏まえつつ、進めている。

ただ、今年度の連携研究は、コロナウイルス感染防止の観点から、大学を含め外部からの来校者を制限したため、例年通りの取り組みを実施することができなかった。経過としては、12 月に大学教員が授業を参観し、カンファレンスを行った後、メール等で協議を重ねながら、授業を計画し、1 月に大学教員による授業を行った。

2. 研究の目的

小学部教員と大学教員、大学院生等が共同で授業について検討し、自立活動の授業における音楽の有効性を探る。また授業の充実、教材の工夫と改善を図る。

3. 児童の実態と及び課題

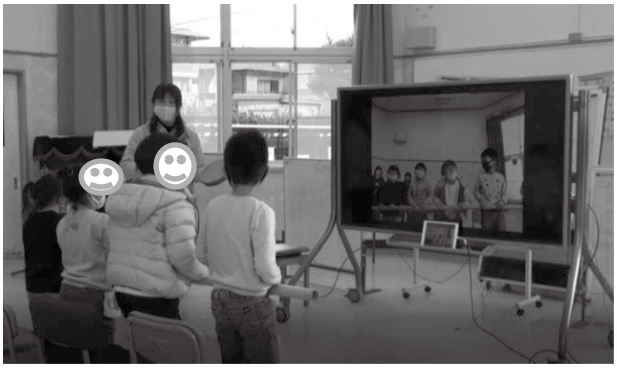
本校小学部の子どもたちの実態は、発達的、障害特性的にも幅広い。今回、授業を行った低学年児童 4 名の実態として、友だちを意識することはできるがマイペースであり、自分の思いのままに行動してしまったり、自分の身体の動きをイメージすることが難しく、身体の動きがぎこちなかったり、普段の学習場面において、注目したり、聞いたりすることが難しい等のことがあげられる。音楽の授業では、ボディーパーカッションやリズム打ち、歌唱や鑑賞、楽器合奏等で音楽の心地よさを感じている子児童たちである。

自立活動の課題は、当然ながら個々それぞれであり、担任が個別の指導計画に目標を掲げ、指導している。

4. 授業実践

(1)12月15日(火)低学年「よくきいて、みんなで合わそう！」

12 月15 日に大学教員3名による授業参観と協議が行われた。低学年の学級で、10 月より取り組んでいる「きいてうごこう」の授業を参観した。



この授業は、他者との協働の場(「人間関係の形成」「コミュニケーション」)を設定し、外部からの情報(見る聞く)を取り入れ、自分の動きにつなげる(「環境の把握」「身体の動き」)ということにねらいをあてて取り組んでいる。

授業では、パーランクの音を聞いて動くことを意識し、2 人組または 4 人組で棒を持つことで、友だちと立ったり座ったりという動きを協働させるという活動を行った。難聴で補聴器を装着した児童も、パーランクの音をしっかりと聞き取り、動くことができていた。また自分たちの身体の動きを、その場でモニターで確認しながら、取り組めるようにするなどの支援を行った。

授業後のカンファレンスでは、動きを意識させるのか、聞くことに意識させるのか、ねらいを明確にした方がよいことや、パーランクを打つときに、アナクルーシス(予備拍)を感じて打つようにしてはどうか、テンポを変えてみてはどうか、曲の構成によって動きを変えたりして、表現活動に発展してはどうか等の音楽的な観点で、今後の可能性を含めた話し合いが行われた。

(2)1 月12日(火) 「よく聞いて、みんなで合わそう！パート2」

大学教員 2 名が、前時の授業を発展させ、「よくきいて、みんなで合わそうパート2」の取り組みを行った。新しい取り組みとして、ギャザリングドラムを臼に見立てた「おんがくのおもちつき」を行った。《おんがくのおもちつき》(作詞作曲　高橋友子)を使ったこの活動は「コミュニケーション」、「人間関係の形成」、「身体の動き」、「環境の把握」との関連がある取り組みである。この活動では、一人ずつ名前を呼ばれた児童がお餅に見立てたギャザリングドラムを叩き、次第に皆の

音を「ペッタンペッタン」と合わせて最後の一打に向けて速度をはやめ、協働作業の中で音楽の「緊張と開放」のダイナミズムを体験するものである。児童らはタイミングよくドラムを鳴らしたり（餅をついたり）、歌詞に合わせて友だちにお餅に見立てたお手玉を渡したりと、音楽に合わせながら友だちと動きを合わせる心地よさを感じている様子がたくさん見られた。また、お餅つきの経験のない児童もいるとの担当教員の助言から活動の最初にイラストを提示して、説明を加えた。これによってどの児童もイメージをもって活動に参加できるようになっていた。

また、もう一つは前時の取り組み「よく聞いて、みんなで合わそう」を発展させた活動を行った。嵐の《カイト》は運動会で使用していた楽曲で馴染みがあった。楽曲構成を整理し、＜A メロ＞、＜B メロ＞では、ドラムの合図に合わせて立つ、座る、の動作を友達と一緒に行う。＜サビ＞のところではフラッグ鈴を下で鳴らす、あるいは手を高く「ピン」とあげて上で鳴らす、という動作を行うことを活動の大まかな枠組みとした。無論、児童らの動きの状態にあわせるのが第一で、楽曲構成に合わせて動きを固定化するということを決して行わないことが重要である。この活動では、2 人組に分かれ 2 人ずつ、時には 4 人一組にもなってフラック鈴を持ち、ドラムの音をよく聞きながら、また指導者の手元をよく見ながら、身体を動かそうと意識できていた。

さらに本時の活動の仕上げとして全曲を通して動いてみる際には、少し違う動きのお願いをすることを最初に説明した。そして楽曲のクライマックス＜C メロ＞の部分「嵐の中をかき分けていく小さなカイトよ、悲しみを超えてどこまでも行こう、そして帰ろう、その糸の、「間」（ここは、一旦音楽が消える部分）、つながった先まで」が始まったら、前方に歩いてきてもらい、「間」の部分になる手前で立ち止まり、「間」の部分になるタイミングにあわせてフラッグ鈴を上にあげる「ピン！」の動きができるように絵カードで示した。その後全員で円をつくるように動き、＜後奏＞では再び、次第にフラッグ鈴を下、まん中、上（「ピン！」）とあげていき、最後鈴をたくさん鳴らして終わるようにした。この活動終了時にはジャンプしたり、拍手したりと喜ぶ児童の姿もあった。以上のような 4 人一緒にフラック鈴を持っての動きは一体感があり、身体も自然と動く様子が見られた。普段の生活では、聞く力、見る力に課題があったり、自己中心的なコミュニケーションをしたりという実態の子どもたちである。しかし、今回の授業を通して、意欲的に見聞きし、友だちとコミュニケーションをとり、そのことに心地よさを感じる体験をすることができた。

5. まとめと今後に向けて

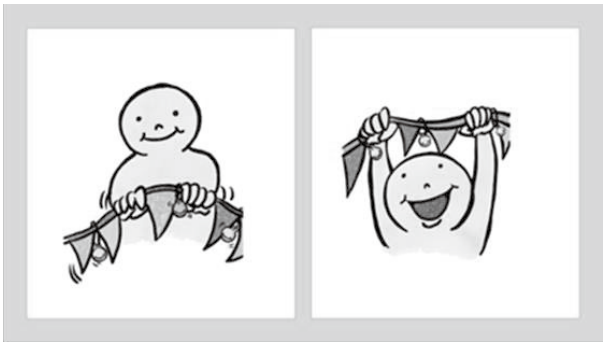
本共同研究を通して、音楽的なアプローチは、自立活動の指導において有効であるということが見えてきた。今回の研究の中での音楽の有効性としては、様々な感覚への刺激となること、認知の機能を高めること、ルール等を心地よい活動から理解できること、心理的な開放感や達成感が味わえ、他者とのコミュニケーションの糸口になること等が考えられる。例えば、リズムに合わせて、友だちと動きを合わせることは、言葉を用いなくても成立するコミュニケーションとなり、その心地よさを感じることができていたようだ。このことは、日常生活の中でのコミュニケーションへの般化が期待できる。また、見る、聞く、動くという連動した取り組みを、音楽のある楽しい取り組みの中で経験しながら、その機能を高めることができると考えられる。加えて本研究を通して、音楽教育の大学教員からの視点、大学院生からの視点、特別支援学校教員からの視点を出し合うことで、幅広く子どもの実態をとらえることができ、自立活動における課題へのさまざまなアプローチの方法について深めることができた。

課題としては、コロナ禍ということもあり、なかなか授業の参観、カンファレンスを実施できず、メールや電話での協議を中心に、授業づくりを進めざるを得なかった。そのため子どもたちの実態把握、課題の共通理解が十分にできていない部分もある中で、授業実施となってしまったことがあげられる。次年度は、もう少し早い段階で研究を進め、本研究での成果をもとに自立活動の音楽の有効性について、より深めていきたい。

6. 参考文献

NHK2020 ソング《カイト》(作詞:作曲米津玄師、歌:嵐)
https://www.youtube.com/watch?v=ETLT0WXFX1E (2021年1月6日 確認)
生野 里花・二俣 泉(2001)『静かな森の大きな木』春秋社.

お餅付きの説明時に提示したイラスト



フラット鈴の振り方の説明時に提示したイラスト